

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
人体機能解剖学特論	2単位30時間(15コマ) 講義科目	博士前期1年次 後期開講	可・不可
科目責任者	李 相潤		
担当者	李 相潤		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> 生体を構成する諸器官が持つ個々の特性は、内分泌・神経系を中心とした生体情報によって恒常的に維持されています。これらの器官系について、肉眼や細胞・組織学的レベルで形態学的な相同・相違（比較形態学）を解析し、形態の背後にある生物学的原則を理解します。特に運動器の筋組織や骨組織に関しては、組織の採取から染色までの過程を観察し、骨組織と筋組織の形態を深く理解します。			
<b>2. 授業計画・内容</b> 各器官系について、その基本的な構造に関する英文を抄読するとともに、実際にマクロ（肉眼）およびミクロ（顕微鏡）レベルで標本を観察・理解し、その形態が持つ必然性を学びます。また、基礎研究で用いられている骨組織および筋組織の形態や特性についても理解を深めます。  第1回                    運動器系Ⅰ：骨・筋・関節の基本構造に関する英文抄読 第2回                    運動器系Ⅱ：骨・筋・関節の形態形成に関する英文抄読 第3回                    動物実験に関する倫理 第4回～第6回        実験動物の解剖と組織の採取 第7回～第9回        骨組織のミクロ的標本観察 第10回～第11回    筋組織の染色（HE/ATPase 染色） 第12回～第15回    筋組織の染色（AP/SDH 染色）			
<b>3. 教科書、参考書</b>			
英文文献、ならびに講義・実習のポイントをまとめたプリント、小冊子を配布します。 【参考書】 ・Bloom & Fawcett: 「Concise Histology」、Thomson Publishing、1997年、ISBN 0-412-07971-2 ・A. ポルトマン著 島崎三郎訳: 「脊椎動物比較形態学」、岩波書店、1979年			
<b>4. 成績評価方法</b> 授業への参加度（60%）、討論や質疑応答（20%）、レポート等（20%）により総合的に評価する。			
<b>5. 受講要件</b> なし			
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b> 講義日時については相談に応じます。			
<b>7. その他</b> ・出席の際には白衣等を持参すること。 ・オンデマンドは実施しない。			